

第3次おかやま夢づくりプラン（仮称）素案に対する 意見聴取結果について

8月18日に、「第3次おかやま夢づくりプラン（仮称）」素案を公表後、パブリックコメントを実施し、広く県民等から意見や提案を伺った。

また、市町村長と知事の意見交換会を実施し、プランに関して幅広い意見交換を行った。

1 パブリックコメント

- ・実施期間 8月19日～9月19日
- ・件数 189件（108人・団体）
- ・主な意見と県の考え方 資料1のとおり

2 市町村長と知事との意見交換会

- ・開催日 10月3日（月）
- ・出席者 全市町村長（代理2名を含む）
- ・主な意見 資料2のとおり

3 今後の対応方針

- ・パブリックコメントについては、資料1に記載した県の考え方に沿って、最終案に反映させる。
- ・市町村長からの意見については、今後、十分に内容を検討し、所要の修正を最終案に反映させる。
- ・11月中旬に最終案をとりまとめ、11月定例会に上程する。

パブリックコメントでの主な意見と県の考え方

第 1 章 基本的な考え方

	意見の要旨	県の考え方
1	<p>誰が誰に向けての発信なのかが伝わりにくい。</p> <p>主体者がたくさんいて目標を共有していくということであるが、誰のためのプランなのか、そのプランの遂行者は誰であるのかが分かりにくい。プランの遂行者が、今いないのであれば、どのような人材や組織を育てていくかプランで触れてほしい。</p>	<p>夢づくりプランは、県政の羅針盤であり、5年間で県が何をしようとしているのかを明確にすることを基本にしていますが、プランに掲げる目標は県の取組のみで達成できるものではないことから、適切な役割分担の下、必要な人材の育成にも配慮しながら、市町村はもとより、県民、ボランティア・NPO、企業、大学等との協働によって推進してまいります。</p>

第 2 章 岡山の将来像

	意見の要旨	県の考え方
2	<p>企業活動に最適な「安全性」と「安定性」では、岡山の安全神話的なことばかりが語られている。これは原発安全神話と同じであり、東日本大震災で被害に遭われた方に対し、失礼ではないか。また、安全神話的内容が岡山の危機感のなさを露呈していると思う。</p> <p><複数意見（同趣旨のものを含む）></p>	<p>我が国全体の地震発生リスクが高まっていることは事実であり、また、地震はいつ起こるかわからない災害であることから、入念な防災対策が求められるのは当然と考えています。本県においては、災害が少ないという経験ゆえの防災対策の遅れや防災意識の低さも指摘されてきましたが、東日本大震災の教訓を十分に踏まえ、次期プランでは、メッセージ施策として「県民の命を守る防災・減災プログラム」を置き、防災意識を高めることなども含めた取組を強力に推進することとしています。</p> <p>その一方で、国の地震調査研究推進本部の調査では、本県は直下型地震の可能性が極めて小さい安定した地盤であるとされており、震災の教訓から、生産拠点等を分散させるいわゆる「リスク分散」</p>

の動きの中、このような客観的なデータに基づく「安全性」に着目し、この動きに対応していくことは、本県のみならず、我が国全体の発展に貢献することにもつながると考え、発展可能性にこの項目を盛り込んだところです。

第3章 行動計画（中期5カ年計画）
基本戦略Ⅰ 安全・安心な地域づくり

	意見の要旨	県の考え方
3	<p>マグニチュード6から10まで、それぞれの「想定」被害予想の公表をお願いしたい。自主防災組織の避難準備に備えて行動準備が必要だ。</p>	<p>現在、国において、3連動地震の地震動等について検討がなされており、来年6月にも新たな地震動等の基礎的なデータ等が示されると聞いています。</p> <p>県では、その基礎的なデータ等に基づいて新たな被害想定を行い、県地域防災計画等における被害想定等を変更し、これに基づいた避難対策等に取り組んでまいります。</p>
4	<p>広く県民に条例を浸透させるため、「健康長寿社会の推進」の項目に、岡山県民の歯と口の健康づくり条例にもとづく「8020健康長寿社会の実現」を加えるべきだ。</p>	<p>メッセージ施策である「心と体の健康づくりの推進」の中で、県民の歯と口の健康づくり条例の普及啓発や、「8020健康長寿社会の実現」に取り組んでまいります。</p>
5	<p>「安全・安心な地域づくり」の中に、「支え合いの地域づくりプログラム」の項目がないのはなぜか。阪神の震災以来、地域の支え合いが重要視され、東日本大震災でも地域の絆が安全・安心の基盤という考え方が定着しつつある今、このプログラムがないのは不思議だ。</p> <p>＜複数意見（同趣旨のものを含む）＞</p>	<p>次期プランでは、「基本的な考え方」や長期構想、行動計画の「基本方針」において、「人の和を大切にし、県民力を発揮しながら、生活者の視点に立って、主役である県民や地域が輝く県政を目指す」ことや、「支え合いや助け合いなど、やさしさを持って心を通わせることができるコミュニティ」の構築、「命の尊さや人と人との絆を大切にする考えの広がり」などを明記しており、プラン全体を通じて、「支え合い」や</p>

		<p>「絆づくり」を重視しています。</p> <p>このため、単独のプログラムを設けるのではなく、「安全・安心な地域づくり」分野のほか、複数のプログラムやプロジェクトに、「支え合い」や「絆づくり」に関係する具体的な施策を盛り込んでいくところです。</p> <p>なお、「安全・安心な地域づくり」においては、「県民の命を守る防災・減災プログラム」や「犯罪や事故のない社会実現プログラム」で、「災害時に要援護者を支える体制づくりの推進」や「地域ぐるみで災害に備える体制づくりと暮らしの意識の高揚」、「地域社会の連帯感や絆の強化による犯罪抑止機能の向上」などに取り組むこととしています。</p>
--	--	--

基本戦略Ⅱ 将来を担う人づくり

	意見の要旨	県の考え方
6	<p>学力をあげるためには、子どもたちの学習意欲をいかに高めるかが大きな問題だ。メッセージ施策の中にもう少し盛り込んでどうか。</p> <p><複数意見（同趣旨のものを含む）></p>	<p>確かな学力の向上には、子どもたちが興味・関心をもって意欲的に学ぶことが大切であるため、分かる喜びや学ぶ楽しさを実感できる授業を展開するとともに、子どもたちが将来の夢や目標を持ち、目的意識を持って学ぶようにすることが必要であると考えます。</p> <p>御意見の趣旨を踏まえて、メッセージ施策の中にその内容を記載することを検討してまいります。</p>
7	<p>全国学力・学習状況調査について、どうやって、また、何のために全国順位10位以内を目指すのかわからない。</p> <p>学校現場は子どもと向き合う時間や教材研究の時間が十分に取れない状況だ。教職員がゆとりを持って、子どもたちと接することができる環境整備こそ必要だ。</p>	<p>学力調査の指標については、全国学力調査の結果や全国順位が学力の全てを表すものではありませんが、現状を大きく改善する決意と方向性を県民にわかりやすく伝えられる指標として掲げたものです。また、順位の上昇のみを目指すのではなく、あくまでも、学力向上に関する施策を着実に積み重</p>

	<p><複数意見（同趣旨のものを含む）></p>	<p>ねた結果として、順位に反映されるものと考えています。</p> <p>また、教職員のゆとりに関しては、ゆとり創造に向けての先進的な取組事例を広めていくことや、事務の効率化などを進めてきており、今後とも、教職員がゆとりをもって子どもと接することができる環境づくりに努めてまいります。</p>
8	<p>学力向上策の充実として、習熟度別指導など個に応じたきめ細かな指導の推進をあげているが、きめ細かな指導をするためには、教職員数を増やすなど、教育環境を整える必要がある。定数内講師を正式採用することから始めるべきである。</p> <p><複数意見（同趣旨のものを含む）></p>	<p>教職員数については、国の定数改善等の動向を踏まえながら、その充実努めてまいります。</p> <p>また、将来の児童生徒数の減少等に伴う変化への対応やきめ細かな指導の充実のためには、講師や非常勤講師の配置も必要と考えますが、近年、新規の正規採用者を増やしているところであります。</p> <p>今後とも、退職者数や児童生徒数の動向等を注視し、正規教職員・講師・非常勤講師のバランスを考えた教職員の採用について、検討してまいります。</p>
9	<p>教育現場で、子どもたちが岡山をより好きになるプログラムがあるといいと考える。</p> <p><複数意見（同趣旨のものを含む）></p>	<p>基本施策「地域力による教育の推進」の中で、子どもたちの郷土を大切に作る心を育む施策を推進することとしています。</p> <p>また、岡山県教育振興基本計画においても「郷土に学ぶ教育の推進」を掲げ、取組の充実を図ってまいります。</p>
10	<p>英語の重要性は否定しないが、特にアジア圏を意識したグローバル人材の育成というような視点を盛り込むべきだ。アジアからの留学生がたくさんいるのだから、大学との連携による留学生を活用した中国語、ハングル教育に英語同様に取り組むべきだ。</p>	<p>様々な分野で進展するグローバル社会では、国際感覚やコミュニケーション能力を備えた人材が不可欠と考えています。その中でも、英語が事実上の国際共通語となっている状況を踏まえ、この5カ年間については、英語力の向上に重点をおいた取組を進めることとしています。</p> <p>なお、留学生による語学講座は、(財)岡山県国際交流協会等が</p>

		<p>実施していますが、今後、多様な主体による講座・セミナー等が多く開催されるよう、情報やノウハウの提供を行ってまいります。</p>
11	<p>小学校の不登校ワーストワンという不名誉な称号は、教育だけではなく、子どもに直接行う福祉的な支援が不足していることも影響しているのではないかと。子どもに直接働きかける政策はないのか。</p>	<p>子どもたちの不登校等の問題については、メッセージ施策「子どもたちの豊かな心の育成」の中で、教職員研修や教育相談体制の充実等を通じて、その未然防止や早期対応を図ることとしているところです。</p> <p>これに加えて、福祉的な支援としては、基本施策「困難を有する子ども・若者やその家族への支援」、メッセージ施策「心と体の健康づくりの推進」の中で、児童相談所において、学校と連携し、不登校の子どもに対する相談対応を行うとともに、ひきこもり対策として、保健所に相談窓口を設置し、医師による専門相談や訪問などに加え、ひきこもりからの回復に向けて、安心して人々と交流できる場の提供などを行ってまいります。</p>
12	<p>「支え合いの心あふれる社会実現プログラム」は、個々の人権尊重について書いてあり自立や尊重、人としての平等を啓発する項目と捉えた。その項目に「支え合う」という言葉は不似合ではないか。言葉の吟味をお願いしたい。 <複数意見（同趣旨のものを含む）></p>	<p>県では、全ての人々が、性別や年齢、国籍の違い、障害の有無などにかかわらず、社会の一員としてお互いに尊重し、支え合いながら、ともに生活する社会の実現を目指しています。そのため、男女共同参画や青少年の健全育成、人権意識の高揚、UDマインド定着の推進、福祉のまちづくりの推進、多文化共生社会づくりの推進、犯罪被害者等のための施策の推進等の施策を一つにまとめ、「支え合いの心あふれる社会実現プログラム」としたものです。</p>

基本戦略Ⅲ 発展につながる産業づくり

	意見の要旨	県の考え方
13	<p>昨年、モデル事業として試行した「メディカルツーリズム」のような取組は、今後取り組まないのか。岡山県のポテンシャルが生かせる分野だと思ふ。</p>	<p>「メディカルツーリズム」など、岡山県のポテンシャルを生かした取組については、関係機関とも連携しながら、今後とも、東アジア総合プロモーションの中で取り組んでまいりたいと考えています。</p>
14	<p>ものづくりは先端産業と思ひ込み過ぎではないか。先端産業のものづくりも大切で取り上げる必要があるが、伝統産業の中に蓄積されたローテクの洗練こそがものづくりの基本だ。文化と産業の融合という視点を入れてほしい。</p>	<p>「地域産業パワーアップ・新ビジネス育成プログラム」のメッセージ施策「地域に根ざした産業の『独自の強み』づくり」の中で、地場産業をはじめ、伝統製品の生産技術や文化財、さらには自然など、特色ある地域産業資源を活用した取組を支援していくこととしており、こうした取組の中で、既存技術の洗練や文化と産業との融合も図られるものと考えています。</p>
15	<p>観光地に通じる道路への案内標識の整備を盛り込んだほうがよい。観光客の求める場所に案内標識が整備されていなかったり、周辺の道路状況の変化に応じた更新がなされていなかったりと杜撰。案内もおもてなしの一つということをお忘れなさいでほしい。 ＜複数意見（同趣旨のものを含む）＞</p>	<p>観光客等を受け入れる基盤として、円滑な案内や誘導は重要であると考えています。</p> <p>観光案内看板等については、観光部局と道路管理者が連携しながら整備しており、今後とも、道路利用者や県民の皆様の御意見をお聞きしながら、改善に取り組んでまいります。</p>

基本戦略Ⅳ 豊かで潤いのある暮らしづくり

	意見の要旨	県の考え方
16	<p>総合型地域スポーツクラブの設立・育成は国の施策として掲げている案件なのに岡山県はなかなかできてない。基本施策に「生涯スポーツの推進・総</p>	<p>「文化・スポーツ・学びを楽しむ暮らし創造プログラム」のメッセージ施策に掲げた「スポーツで創る『元気コミュニティ』の推</p>

	<p>合型地域スポーツクラブの支援」を追加してほしい。 <複数意見（同趣旨のものを含む）></p>	<p>進」の中で、総合型地域スポーツクラブの設立・育成を含め、広くスポーツ活動を通じた交流やコミュニティの活性化を図ることとしておりますが、御意見の趣旨を踏まえ、よりわかりやすい記載となるよう検討してまいります。</p> <p>なお、具体的な施策については、来年度策定予定の県スポーツ推進基本計画（仮称）の中に盛り込むよう検討したいと考えています。</p>
17	<p>成人男女の運動・スポーツ実施人数を76.4万人から86万人という目標値を掲げてあるが、文部科学省が唱えるスポーツ立国戦略では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人の週1回以上のスポーツ実施率が65%程度 ・成人の週3回以上のスポーツ実施率が30%程度 <p>になることを目指している。岡山県としても「%」で表示したほうが、全国と比較しやすいのではないか。</p>	<p>成人男女の運動・スポーツ実施人数については、国の目標値と次期プランの指標では目標年度や年齢構成等が異なることから、人数のみの指標としていますが、御意見の趣旨を踏まえ、率を併記することも検討してまいります。</p>
18	<p>65～70歳の雇用の場づくり（ただし、若年者雇用を阻害しないことが条件）を盛り込んでいただきたい。また、海外からの労働力移入は避けて通れない課題であり、検討してほしい。</p>	<p>高齢者の雇用については、「誰もがいきいき働き活躍できる社会実現プログラム」の中で基本施策に位置付け、雇用の促進を図ることとしています。</p> <p>海外からの労働力移入に関しては、国においても様々な議論がなされているところであり、県としては国の動向を注視していきたいと考えています。</p>

中四国州推進プロジェクト

	意見の要旨	県の考え方
19	<p>道州制・中四国州の考え方は非現実的だ。四国で「中四国州」の考え方は全くといっていいほどない。「岡山が中心になるため」の「中四国州構想」は発想を変更する必要がある。地方自</p>	<p>中四国地方が一体となることで中四国圏域全体の発展が図られると考えていることから、「中四国州」がふさわしいとしております。このため、環瀬戸内海を含む</p>

	治の原則に立ちかえり、中四国州ではなく、環瀬戸内圏のまちづくり連携の方向に転換すべきだ。	中四国各県との連携強化に取り組むことにしております。
20	道州制に関して、今までの集権型を維持するのか、分権型に移行するのか。分権型に移行するとすれば、どの程度の分権が可能なのか。	道州制への移行に当たっては、中央集権型システムの転換を図り、国の事務を外交、防衛、司法など国家の存立に関わる分野に重点化し、福祉や環境対策、産業振興、社会資本整備など内政に関する分野については、専ら地方が自らの権限と財源に基づき担うようになります。そして、住民自治の下、現在の都道府県の手務についてはできるだけ身近な市町村が実施し、道州は圏域内の広域的・専門的な事務を実施することになります。
21	中四国州に関する記述に、なぜ中四国州でなければならないのかという理由をもっとはっきり示すべきだ。それと中四国州でなければならない理由として、瀬戸内海の島々が抱える過疎高齢化、限界集落化の問題を提示し、それらの問題に対処する上でも中四国州が有用であるということをはっきり述べるべきだ。	道州制の区域割りについては、長期構想の中で記述しているとおりに、中四国地方が一体となることで、人口・経済規模の点で十分な自立力を備えること、さらに、御指摘の瀬戸内海の島々の課題への対応も含め瀬戸内海の一体的な保全と利活用や、日本海から太平洋に及ぶ広域的な交通体系を生かした地域・産業戦略や広域観光の推進などによって、圏域全体に活力を及ぼすとともに、将来の発展につながる質の高い施策展開が期待できることから、中四国州が適切と考えております。

第4章 プランの進め方

	意見の要旨	県の考え方
22	きちんと実行できているかどうかを自己評価するのではなく、公募で選んだ県民など第三者に評価させるようにすべきだ。	次期プランの評価は、その進捗状況や推進に当たっての課題を把握し、これまで以上に適切なPDCAサイクルの確立や説明責任の徹底を図る観点からも、まずは県が主体となって実施し、評価結果

	を分かりやすくお示した上で、第三者からも御意見をいただくことを考えています。
--	--

その他

	意見の要旨	県の考え方
23	「暮らしやすさ指標」については、それぞれデータの出典元を記載すべきだ。	「暮らしやすさ指標」の出典元については、配付用冊子において記載することを検討してまいります。
24	県民が理解するには難しい言葉がある。「セイフティ・ニューディール」「ノーマライゼーション」「UDマインド」「スマートライフあるいはスマートタウン」などは注釈が必要であると思う。	御意見の趣旨を踏まえ、再度点検を行い、わかりにくい言葉については、注釈を追記することを検討してまいります。

市町村長と知事との意見交換会での主な意見

第3章 行動計画（中期5カ年計画）

基本戦略Ⅰ 安全・安心な地域づくり

1	①県民の命を守る防災・減災プログラム 対象とする災害に「台風」を追記してほしい。（市長会）
2	①県民の命を守る防災・減災プログラム 施策に「児島湖流域における防災対策」を追記してほしい。（市長会）
3	③誰もが安心！子育て応援プログラム 保育所を利用している場合において、子どもが病気になったときの対応の充実が必要だ。力をいれていきたいので連携を図ってほしい。（津山市）
4	④良質で先進的な保健・医療・福祉サービス提供プログラム 昼には診療所があっても、夜には無医村になる地域が出てきている。開業医の高齢化もあり、将来的に大変な状況になる。県北だけではなく、県南も県境等、地域によっては医師が不足している地域があるので、配慮してほしい。（井原市・赤磐市）

基本戦略Ⅱ 将来を担う人づくり

5	①学校・家庭・地域の連携による教育推進プログラム 子どもの教育面だけでなく、「教職員の質の向上、スキルアップに向けた項目」を追記してほしい。（市長会）
6	②世界にはばたけ！グローバル人材育成・誘致プログラム 他県からも注目されるような「世界に通用する英語教育プログラムを作成すること」を追記してほしい。（市長会）
7	③支え合いの心あふれる社会実現プログラム 小・中・高等学校の不登校、暴力行為の発生割合が全国最悪であり喫緊の課題であるが、メッセージ施策に具体的な取組を追加してほしい。（井原市・新見市）
8	④地域を支えリードする担い手育成プログラム 高齢者の活用の推進等、「高齢者の就労の場の確保に積極的に取り組むこと」を追記してほしい。（市長会）

基本戦略Ⅲ 発展につながる産業づくり

9	<p>①アジアへ！世界へ！産業グローバル戦略推進プログラム</p> <p>生産拠点の進出は、国内産業の空洞化につながる懸念があるため、「支援のあり方」をよく検討してほしい。(市長会)</p>
10	<p>③成長につながる企業の誘致・集積プログラム</p> <p>「企業誘致に関する情報を市町村へ積極的に提供すること」を追記してほしい。(市長会)</p>
11	<p>⑤「おもてなし岡山」魅力発信・誘客プログラム</p> <p>施策として取り組む周遊型・滞在型観光に「体験型」を追記してほしい。(市長会)</p>
12	<p>⑥儲かる産業に！攻めの農林水産業育成プログラム</p> <p>有害鳥獣対策については、基本施策にあるが、メッセージ施策にして、一段あげて真剣に取り組んでほしい。(奈義町)</p>

基本戦略Ⅳ 豊かで潤いのある暮らしづくり

13	<p>①文化・スポーツ・学びを楽しむ暮らし創造プログラム</p> <p>基本施策「生涯学習活動の推進」の事業例について、内容が具体的にイメージできるように「社会に参加・参画して活動できる場の充実」の記述を「公民館等における社会教育活動の充実」に修正してほしい。(市長会)</p>
14	<p>②地球と人にやさしい岡山流スマートライフ発信プログラム</p> <p>スマートタウン構想の推進を掲げていることは心強い。山の資源は半分しか使われておらず、残りの半分は未利用で放置林だが、これを活用したバイオマス発電所についても、スマートタウン構想の中に加えてほしい。(真庭市)</p>
15	<p>③未来につなぐ！自然と景観の保全プログラム</p> <p>森林機能を保全するために間伐などを実施しCO2の排出削減に貢献している市町村に対して、森づくり県民税を活用した支援を積極的かつ重点的に実施してほしい。(新見市)</p>

中四国州推進プロジェクト

16	<p>道州制について、全国町村会では合併を伴う道州制は絶対反対だという声明を出している。合併を伴うのであれば、十分検討してほしい。(吉備中央町)</p>
----	--

基本戦略横断プロジェクト

17	①元気！輝く中山間地域活性化プロジェクト 「離島に対しても、中山間地域と同様の支援を受けられること」を明記してほしい。(市長会)
----	---

第4章 プランの進め方

18	「プランの推進、事業の実施にあたっては、関係市町村との協議を十分に行い、かつ、市町村の財政負担にも十分配慮すること」を明記してほしい。(市長会)
19	プランに掲げる多くのプログラムは、市町村の役割なくしては実現不可能だ。指標を掲げるだけでは達成できない。県として行う事項、市町村との連携により行う事項、役割分担をより明確にした上で、市町村との連携により行う事項については、県の役割や市町村への支援を明らかにすることが重要だ。(岡山市)